

⑤ニガウリを育てよう

水はけいい土壌を選ぶ

ニガウリは、ウリ科の1年草で別名ゴーヤー、レイシとも呼ばれています。熱帯アジア原産で暑さに強い野菜です。水はけのよい土壌を好み、酸性は嫌います。生育適温は17から28度で、夏場に茎葉の伸びが旺盛であることから、日よけにも利用されています。

1. 品種

品種は、果実が緑色で太くて短い紡錘型の系統や細くて青い系統、細くて白い系統などがあります。

2. 畑の準備

定植の2週間前に1平方メートル当たり苦土石灰150グラムを散布し、耕うんします。その1週間後、1平方メートル当たり堆肥3キログラム、化成肥料（成分15・15・15）100グラム、ヨウリン30グラムを散布し、耕うんします。

3. 播種または、定植

種をまく場合は、種が固いので、飛び出た部分を爪切りで切り取り、3号ポットに4月中・下旬に播種します。畝幅180センチ（床幅80センチ、通路幅100センチ）高さ10センチの畝を作り株間は100センチにします。定植は、4月下旬から6月下旬ごろに本葉3、4枚で根鉢を崩さず深植えしないように定植し、灌水します。

4. 整枝、支柱立て

子ヅルが伸びてきたら支柱を立てキュウリネットを張ります。親ヅルを8～10節で摘心も、子ヅルを4本伸ばし基本ヅルにします。その後、発生する孫ヅルは雌花の少ないヅルを取り除き葉が混み合わないようにします。また、黄色の老化葉は随時摘葉し果実への日当たりをよくします。

5. 追肥

ヅルが伸び生育が旺盛になる78月は、2週間に1回追肥用化成肥料（成分16・0・16）を1株当たり20グラム施し土寄せをします。草勢が弱くなると品質が悪くなったり、収穫量が少なくなるので生育を見て追肥の回数や量を加減します。

6. 病害虫

べと病やうどんこ病などが発生するので、殺菌剤を散布します。ネコブセンチュウが発生するので連作をしないようにします。

7. 収穫、摘葉

果実の表面の凹凸が大きくなり、つやが出てきたら収穫適期です。果実が緑色で熟さないうちにはさみで切って収穫します。



（鹿児島市都市農業センター）